

ハイオス インタトルク構造を応用

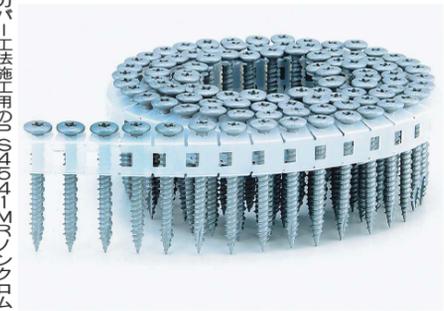
屋根板金の施工効率向上

電動工具メーカーのマックスと共同開発

株式会社ハイオス(東京都墨田区押上、戸津勝行社長)では、電動工具メーカーのマックス(東京都中央区日本橋、黒沢光昭社長)との間で自動化推進ねじ「インタトルク」構造を応用しての新製品を共同開発。屋根板金施工用のねじおよび打機を6月30日より販売開始した。ヒットとリセにおける高い嵌合性がねじ外れを抑制し、工具の長寿命化にも貢献する事から施工者が連続して作業を行えるなど負担軽減、効率向上に資するアイテムであるとして既に反響も得られている。



カービエ法施工用のPS454IMノンクロム



製法開発の背景には、近年、戸建て住宅用の屋根材として「ガルバリウム鋼板」が注目されている点がある。同鋼板は、経年変化によるメンテナンスを要する「スレーター」よりも耐用年数が長く、重い「粘土瓦」と比較して軽丈夫で、高い防水性を備えている。そのため、改装時の「カービエ法」に用いられる素材としても一般的であり、近年その使用は増加傾向にある。

同鋼板を用いた施工は、新築・改装を問わず、「パナドドライ」で「バラねじ」を一本ずつ締め込む工法が用いられている。この工法は強風時の吹き上げ荷重への耐力が求められる事や、材質自体が硬質である事に対応するため、しっかりと留め付ける事を目的に取り入れられている。しかし、作業には手間と



専用ねじ打機「HY-R41MR1」

労力が掛かる事から、現場では益々効率化を図るツールが求められる傾向にあった。

そこで、マックスでは「楽に速く施工できる」をコンセプトに、ハイオスの独自リセス形状「インタトルク」構造を採用し、業界初となる屋根板金施工用ねじを共同開発。合わせて、特殊なリセス・ビット形状である「ポドドライ」「HY-R41MR1」の開発も行った。

ねじは、新築施工用の「PS4533MRノンクロム」(全長長さ32mm)と、カービエ法施工用には「PS454IMノンクロム」(同41mm)の2種類をラインナップ。いずれも頭部径はφ6.6mm。

「ドリット」で連結されているため、連続作業が



インタトルクの構造

可能なほか、先述の通りインタトルク形状採用により高水準のトルク伝達効率を実現。ねじとビットの嵌合性を高めて、ねじのへたつきを抑制する。これにより、ねじ締め時の負荷が高い「カービエ法」においてもねじ外れの頻度を抑え、安定したねじ締めを実現するに至った。

同製品に関する問合せは、ハイオス(電話番号03・6661・8777)またはマックスお客様相談ダイヤル(同0120・2222・0120)まで。



インタトルク® PAT. INTRTORQUE

直進性に優れた驚異の嵌合により、締結時のぐらつきを防止。抜群のトルク伝達で、確実かつ安定した締結力を発揮します。

ここが違う!



スーパーポイント
ガイド&ロック機能



十字ネジによる、さまざまなトラブルを解消します。



ネジの落下

斜め締め

横締め

カムアウト

ビットの消耗

ネジの位置ズレ

